

## 1.1.1版インストーラ・パッケージ作成に向けてバージョン番号を更新する

2015/10/22 16:55 - n.kawauchi

ステータス:	終了	開始日:	2015/10/22
優先度:	通常	期日:	
担当者:	n.kawauchi	進捗率:	100%
カテゴリ:		予定工数:	0.00時間
対象バージョン:	RELENG_1_1		
説明			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows用インストーラmsiファイルやLinuxパッケージファイル名に入るバージョンが1.1.1となるように修正する</li> <li>合わせて、1.1.0版のWindows用インストーラのUpgradeCodeのGUIDが、32bitと64bit版で同じ値になっていた不具合を解消させる</li> </ul>			

## 関係しているリビジョン

リビジョン 614 - 2015/10/21 18:38 - kawauchi

[compat.package.installer] Version number has been updated to 1.1.1.

## 履歴

#1 - 2015/10/22 17:44 - n.kawauchi

- ステータスを新規から解決に変更
- 進捗率を0から100に変更

- バージョン番号はtrunkソースに対して修正し、それをbranches/RELENG\_1\_1へマージした
  - 修正箇所については、リビジョン [r614](#) を参照
- UpgradeCodeに関する修正
  - OpenRTM-aist-Python.wxs.yaml.in で定義している
  - 今まで定義していたGUIDはx86版で継続使用し、x86\_64用を新たに取得した

OpenRTM-aist-Python.wxs.yaml.in

Product:

:

```
UpgradeCode_x86: 958ED570-5471-4E82-8378-01C6068F31C2
UpgradeCode_x86_64: F7D63C00-76EC-11E5-A8C6-005056C00008
```

- UpgradeCodeを利用しているOpenRTM-aist-Python.wxs.inは、下記のように対応した

```
<?if $(env.ARCH) = x86 ?>
<Upgrade Id="{% Product.UpgradeCode_x86 %}">
<?else?>
<Upgrade Id="{% Product.UpgradeCode_x86_64 %}">
<?endif ?>
```

- この設定にて生成したmsiファイルをwxsファイルに展開して確認・・・OK!

- OpenRTM-aist-Python\_1.1.1-RELEASE\_x86.wxs

```
<Product Id="{E9CBB6B0-7702-11E5-9CDD-000C292FC2EE}"
:
Name="OpenRTM-aist-1.1.1-RELEASE (32-bit OS) for Python"
UpgradeCode="{958ED570-5471-4E82-8378-01C6068F31C2}"
Version="1.1.1">
```

- OpenRTM-aist-Python\_1.1.1-RELEASE\_x86\_64.wxs

```
<Product Id="{4696E29E-770A-11E5-A910-000C292FC2EE}"
:
Name="OpenRTM-aist-1.1.1-RELEASE (64-bit OS) for Python"
```

```
UpgradeCode="{F7D63C00-76EC-11E5-A8C6-005056C00008}"  
Version="1.1.1">
```

- このUpgradeCodeの変更でも、1.1.0-RELEASE版から1.1.1-RELEASE版へのアップグレードの動作には影響ない。  
UpgradeCodeが1.1.0と1.1.1で同一のx86版でも、1.1.1版インストール時に古いバージョンを自動でアンインストールするという動作が実現できていないので、  
古いバージョンは前もって手動でアンインストールしてもらう必要があるため。  
自動でアンインストールの動作はC++版のインストーラでは実現できているので、Python版も1.1.1の次のリリースで対応予定としている。

#2 - 2015/11/20 09:27 - n-ando

- ステータスを解決から終了に変更